



なないろ

「恩送り」

(幸せをめざして PART 35)

所長 小野 真

今月から後期の活動がスタートしました。後期始業の会において利用者の皆さんに「恩送り」の話をしました。誰かから受けた恩を直接返すのではなく、別の人に送って、その人がまた別の人に渡すことで恩がぐるぐると世の中を回るということを「恩送り」と言うそうです。これは、江戸時代によく使われた言葉だそうです。

「恩送り」は、人と人とを繋ぐ「絆」の実現に欠かせない心ではないでしょうか。

「ペイ・フォワード」というアメリカ映画が話題になりました。ある男の子が「世界を変えたいと思ったら何をする?」という問いに対して「親切にされたら3人の人に親切をする」という計画を思いつき、やがて街中に”親切の連鎖”が広まるというストーリーです。

例えば、中越地震の時、宮古水産高校で作ったサンマの缶詰が、救援物資として小千谷市の避難所に届けられました。そして、東日本大震災の際には、その恩返しに小千谷市民が菜の花の種を高校に送り、生徒の気持ちを癒しました。

漫画タイガーマスクの主人公・伊達直人を名乗って入学の時期になると児童養護施設へランドセル等の贈り物が相次いで届いたことは、まだ記憶に新しいと思います。孤児だった覆面レスラーが同じ境遇の子どものためにファイトマネーを投じるという行動は、「恩送り」の気持ちが心を奥深くから揺り動かしたからだと思います。

地域の方々からは、「作業ボランティア」として協力いただいています。これは、利用者に向けられた「恩送り」であることは間違いありません。

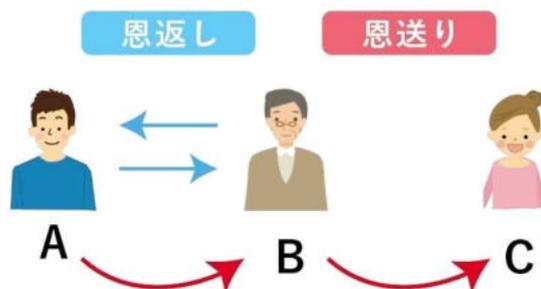
虹の家でも、作業中に分からないところを教えてあげたり、給食や自治会の仕事で困っている時に手伝ったりするなどの行動は、事業所生活の多くの場面で見られます。親切にしてもらった人が他の人に渡すという「恩送り」の気持ちが浸透していくことで、絆の連鎖が点から面へそしてうねりとなって虹の家に留まらず地域全体をプラスの方向に導いていくものと確信しています。

現在コロナウイルスの感染予防によりここ数年ほとんどの行事が中止されています。徐々に通常の活動に戻して地域で活動する時間を増やして行こうと考えています。利用者から保護者や地域の皆さんに「恩送り」を発信し地域に親切の連鎖を広げてほしいと願っています。

私たち職員が心を磨いて行かなければと肝の命じています。これからもよりしくお願いいたします。

恩送り

してみませんか?



前期終業の会で皆勤賞を発表しました。

皆勤賞のみなさんです。

9月30日



五十嵐 千春さん



高橋 秀明さん



圓山 博司さん



伊藤 毅さん



五百川和弘さん



斉藤 財さん



石井 慶太さん



杉田 一義さん



須貝 力さん



高橋 一男さん



渡邊悌二さん



錦織 静男さん

休まず出勤すごいですね。